(19)日本国特許庁 (JP)

## (12) 公表特許公報(A)

特表平7-506308

第2部門第5区分

(43)公表日 平成7年(1995)7月13日

(51) Int.CI.

識別記号

厅内签理番号

FI

(2)

B 6 2 D 1/18

9142 - 3D

(全 4 頁) 審査請求 有 予備審査請求 有

(21)出願番号 特顧平5-508227

(86) (22)出顧日

平成4年(1992)10月16日

(85) 翻訳文提出日

平成6年(1994)5月6日

(86)国際出類番号

PCT/GB92/01906

(87)国際公開番号

WO93/09015

(87)国際公開日

平成5年(1993)5月13日

(31)優先権主張番号 9123656.2

(32)優先日

1991年11月7日

(33) 優先権主張国

イギリス (GB)

(81)指定国

EP(AT, BE, CH, DE,

DK, ES, FR, GB, GR, IE, IT, LU, M

C, NL, SE), AU, CA, JP

(71)出願人 ザ トリントン カンパニー リミテッド

イギリス国ワーイックシャー、シーブイ4

9エイイー、コペントリィ、トリントン

アペニュー(番地なし)

(72)発明者 ハンコック、ミッシェル トーマス

イギリス国ワーイックシャー、シーブイ5 7ディージェイ、コペントリー、アッパ

ー イースタン グリーン レイン 411

(74)代理人 弁護士 ウオーレン・ジー・シミオール

#### (54) 【発明の名称】 護節式舵取りコラム組立体

### (57)【要約】

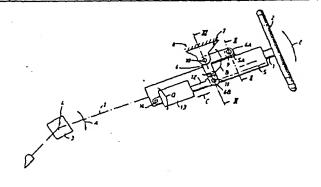
車両用舵取りコラム組立体がそれを垂直平面(E-E) 内で調節する動力設備を組み込み、これは舵取りコラム (1) の一部分(5) へ旋回可能に取付けられた(14に おいて)原動機(電動機13)によって達成され、原動 機はベルクランクレバー(6)の一端(6B)に旋回 可能に連結された腕(12)を往復動させ、他方の端 (6A)は舵取りコラムの部分(5)に旋回可能に連結さ れ、ベルクランクレバーの中間部分は車両の固定部分 (8)の回りに旋回できる。

#### 【産業上の利用分野】

本発明は、東西州の四路式能収りコラム組立体に関する。

### 【特許請求の範囲】

1. 退以川の四面可能な危取りコラム単立体であり、危取りコラ ム(1)が前記に取りコラムの一部分(5)に配配可能に収付 りられて前辺危ឃりコラムを焼料調節する原動機(13)を以 み込んでおり、前足取動機と蛇取りコラムとを接続し前足取動 ほを外側舵収りコラム部材(5)と接続するベルクランク・レ パー(6)を且み込んでいるビボットリンク装置があり、耐見 ペルクランク・レバーの一環(5A)が前記外質能取りコラム



部材 (5) に双回可能に結合され、ベルクランク・レバーの他 方の戌(6B)が、ペルクランク・レバーをその中間の夏回は (10)の回りに団ナための往復動院(12)を有する前記録 幼別に複回可能に通結されており、前記舵取りコラム組立体 は、顧記総取りコラム(1)が承記総収りコラムを検料可能に 製節できるようにハンドル(2)からから違くに貧れた主投長 さの据(4)で夏回可能であり、ベルクランク・レバーの中間 部分(10)が前記だ取りコラムから開稿をあけて配置されて いる固定部分(7)に謀国可能に取付けられていることを特は とする出焉州の四面可能な症取りコラム坦立体。

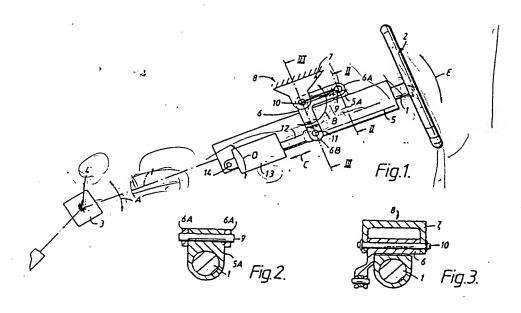
- 2. 前足原動機が電動機である排水項1に足数の換点体。
- 3.紀取りコラムの主義が通過する重直平面内で関節できるよう に危险りコラムが配立されている抗求項1又は2に記載の組立

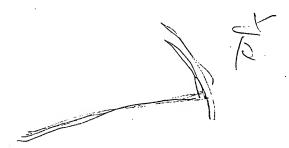
4. 目で挺手の形をした疑回可能な低手 (3) が耐起ハンドルか う違い危取りコラムの前記法 (4) に设けられているは求局 1. 2又は3に記載の組立体。

# 【図面の簡単な説明】

図2は、図1の頃月~11に沿って取った図解新面図。

図3は、図の川-川に沿って取った図2と同様な図である。





#### 特表平7-506308 (3)

補正書の写し(翻訳文)提出書(特許法第184条の8)

平成6年 5月 6 🖾

特許庁長官 麻生 波 股

1. 特許出願の表示 PCT/CB92/01906

2. 発明の名称 料の式かじ取コラム組立体

3. 特許出顯人

住 所 イギリス国ワーイックシャー、シーブイ4 9ェイイー、 コベントリィ、トリントン アベニュー (香地なし) 氏 名 ザ トリントン カンパニー リミテッド

1993年2月22日

4. 代理人 刊印

住 所・東京は千代田区大手町2丁目2巻1号 新大手町ピルディング450号室 電話 03-3241-1526番

(0012) 氏 名 弁茂士 ウォーレン・ジー・シミオ

2. 6 % d 1 /2 - D 1 - D 1 /2 - D 1 /4 -

5. 補正者の提出年月日 6. 添付者類の目録

(1) 補正告の写し(翻訳文)1頭



#### 技正調求の範囲

- 1、 血馬用の雪筋可能な絵取りコラム切立体であり、絵似りコラ ム (1) が前記能取りコラムの一部分(5)に範囲可能に取付 けられて阿記記取りコラムを傾斜製師する原動機(13)を和 み込んでおり、前記原動機と舵取りコラムとを接続し前記録動 機を外側舵取りコラム部材(5)と接続するベルクランク・レ パー(6)を組み込んでいるビボットリンク装置があり、前記 ベルクランク・レバーの一端(6A)が前記外側舵取りコラム 郎材 (5) に疑回可能に結合され、ベルクランク・レバーの他 方の桌(6日)が、ベルクランク・レバーをその中間の疑惑的 (10)の回りに回すための往復動銃(12)を有する前記域 動機に庭回可能に選絡されており、概紀能取りコラム組立体 は、旅紀柁取りコラム(1)が前紀柁取りコラムを蝋料可能に 調助できるようにハンドル(2)からから遠くに触れた主提長 さの珠(4)で庭回可能であり、ペルクランク・レバーの中間 部分(10)が前望に取りコラムから間隔をあけて記載されて いる固定部分(7)に意図可能に取付けられていることを特征 とする革両川の四面可能な形取りコラム組立体。
- 2. 前記原動機が電動機である精米項1に記載の組立体。
- 3. 総取りコラムの主領が迅速する夏瓜平面内で異常できるよう に能蔵りコラムが配置されている頂水項1又は2に記載の超立 性
- 4. 自在版手の形をした庭園可能な選手(3)が前足ハンドルか ら遠い配取りコラムの両記法(4)に設けられている様求項 1. 2又は3に記載の総立体。

r:	国界男女性 5·	/GR 92/01906
-		
L	B 62 0 1/18	
4.70	DI ICACOTO	
G		
IPCS	8 62 0	
	the latest and territory and the latest and the second	
	CONNECTS COMMODITOR TO BE EXECUTABLE	
×	US. A. 4739673 (ISMIRAWA ET AL.) 25 April 1988. see the whole document.	1-5
X.	US, A. 4934737 (MAKATSUKA) 19 June 1990, see the whole document	1-5
×	Patent Abstracts of Japan, Vol 11, No 296, M627, abstract of JP 62-88662, publ 1587-04-23 (FULL KIMO CD LTD)	1-5
×	Petant Abstracts of Japon, Vol 11, No 318, MESE, abstract of JP 82-101569, publ 1987-05-12 (FUJI KIKO CO LTD)	1-5
	which can be a second or because of a second or a seco	Santalist
7	The state of the s	
-	The order of the property of the beautiful thing only but " of address of the property of the	
	Tables from	
23~a (	December 1992	
	ELROPEAN PATENT OFFICE SHE Berocah!	

3 8 2 2 4 1

PCT/CR 92/01904

SA 65501

The second rate of the last of the second rate of t

42,444			~====		~~~
US-A-	4739673	26/04/88	DE-A-C- JP-A- JP-A-	3631946 62068173 62068174	15/04/87 28/03/87 28/03/87
15-a-	4934737	19/06/90	J>-A-	1214570	08/05/89
•		5	-14		
				•	